

# ひょうごの遺跡

昭和60年7月30日発行  
兵庫県教育委員会  
社会教育・文化財課  
兵庫県埋蔵文化財調査事務所  
〒652 神戸市兵庫区荒田町  
2丁目1番5号  
Tel(078)531-7011(代)

〔題字 教育長 井野辰男書〕

## 発掘された丹波の荘園遺跡

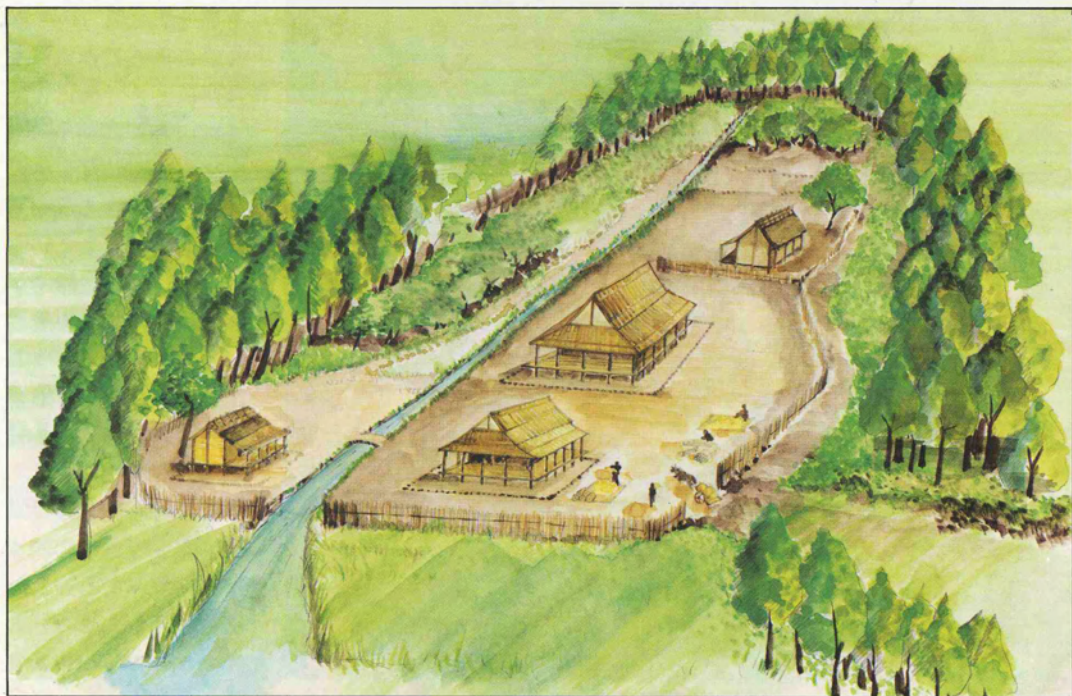
——西木ノ部遺跡(多紀郡西紀町東木ノ部、西木ノ部)——

西木ノ部遺跡は近畿自動車道舞鶴線の建設に先立って発掘調査を行った遺跡で、弥生時代から鎌倉時代にかけて営まれた集落遺跡であることがわかりました。遺跡は三方を山で囲まれた谷の緩い傾斜面地にあり、3つの地区に分かれています。また下方には、篠山川の支流である宮田川が流れ、水田が広がっています。

検出された遺構や遺物からみると、弥生時代後期～古墳時代前期(約1800～1600年前)、奈良時代末期～平安時代中期(約1200～1000年前)、平安時代末期～鎌倉時代初期(約800年前)の大きく3つの時期に分けることができます。今回はそのうち、荘園に関連すると思われる奈良

時代末期～鎌倉時代の遺構と遺物について紹介しましょう。

荘園は奈良時代につくられた2つの法律(三世一身法:723年、墾田永世私財法:743年)によって認められた私有地のことですが、実情は中央の貴族や社寺が諸国にもっていた私有地をさして、室町時代まで続いた土地制度です。西木ノ部遺跡の周辺には、『東寺百合文書』などの古文書によると、「宮田荘」という荘園があり、平安時代前期には摂政であった藤原良房(804～872)の所領として、すでに成立していたことが記されています。そして、宮田荘は室町時代まで続いたとされています。



建物跡想定図(平安時代末～鎌倉時代初期)



西木ノ部遺跡の時期が、このような古文書に書かれた宮田荘の存続した時期とほぼ重なることから、この遺跡が宮田荘に関連した遺跡ではないかと考えられ、前号で紹介した板井・寺ヶ谷遺跡とともに、宮田荘の重要な一部を構成した集落跡であることが明らかになりました。

奈良時代末期～平安時代中期には、主に2×3間程度の掘立柱建物跡を中心に、井戸、溝などが検出されました。南側の谷にある溝は、西側に木板を並べた排水用の遺構で、溝内からは100点以上もの緑釉陶器片が出土しました。緑釉陶器の出土する遺跡はまれで、また出土する量も少ないのがふつうです。100点以上の緑釉陶器は、荘園内で西木ノ部遺跡の果たした役割が高いことを示す資料といえます。また、木組みの井戸が3基見つかっています。そのうちの1基から祭祀に使用されたと思われる斎串が2点出土しています。井戸は古くから神聖な場所とされていますが、斎串の出土はそれを裏付ける資料でしょう。ほかに、皇朝十二銭のひとつである隆平永宝（795年初鑄）や、曲物と呼ぶ木製の

容器なども出土しました。

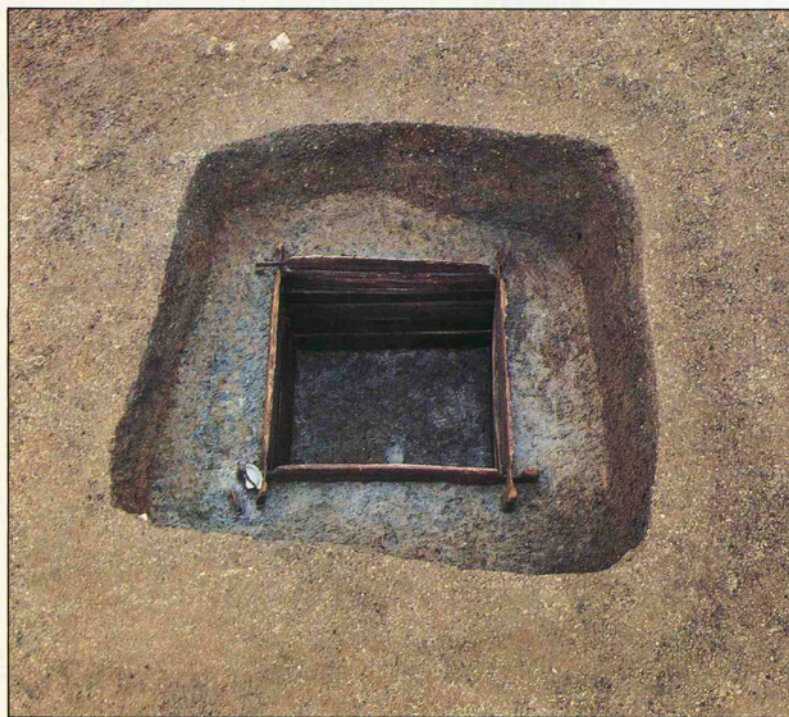
それ以外に、この時期の主な遺物としては青銅製の丸柄・硯・墨で文字を書いた墨書土器などが出土しています。

平安時代末期～鎌倉時代初期の遺構には、掘立柱建物群や井戸などがあります。掘立柱建物跡は、4×5間、4×4間、2×2間などの規模がありますが、柱の並びは不ぞろいで不安定な構造のようです。また、掘立柱建物の近くにあったピットには、直径5cmほどの小さな銅鏡が納められていましたが、腐食が進んでいてどのような型式の鏡であったかは不明です。おそらく、建物を建築する時の祭りに用いられたのではないかと思います。

井戸は2基検出されています。遺物は碗・小皿など日常に使用された食器が中心です。また当時、中国でも南の地方で焼かれていた碗や合子などの焼き物も少量ですが出土しています。これらの中国製品は、宋との貿易によってわが国に輸入されたもので、丹波地方のような内陸部までもたらされていることは、すでにこの時

代に商品流通経済が繁栄していたことを示しているのでしょう。

このように西木ノ部遺跡は、古文書にみえる宮田荘と関係する遺跡である点は注目されます。ただ、人々がどのように生活していたのか、宮田荘の中での役割はどのようなものであったかなど、まだまだ解決されなければならない問題が数多く残っています。しかし、多量の緑釉陶器をはじめ、重要な遺物の出土は、荘園内でもかなり地位の高い人々が住んでいたのではないかと考えられます。

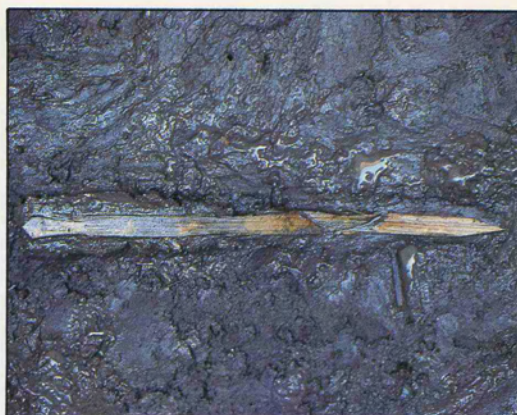


木組の井戸（平安時代前期）





丸柄の出土状況



井戸内より出土した斎串

## 〈用語解説〉

- (1) 東寺百合文書 おもに鎌倉～室町時代にかけての東寺の所有した荘園に関する古文書。東寺所領の丹波国大山荘に関係する記述のなかで宮田荘についても触れている。
- (2) 緑釉陶器 鉛を含む釉薬を素地の表面にかけた陶器の一種。銅を呈色剤として加え、鮮やかな緑色に発色させる。奈良時代からはじまり、平安時代になると広く全国に行きわたるようになる。京都、滋賀、東海地方などでつくられ、器形には碗、皿、盤、鉢、瓶などがあり、平安京や国・郡などの地方の役所、国分寺などの寺

院のほか、祭祀遺跡などから多く出土する。

- (3) 斎串 細長く先端をとがらせ、側辺に切りこみがある串状の木製品。祭りなどにもちいられたと思われる。
- (4) 曲物 ヒノキや杉などをうすい材に挽き、円形に曲げて合わせ目を接着あるいはとじ、それに底板をとりつけた木製容器。
- (5) 丸柄 奈良時代より礼服に使用された革帯の飾り金具の一種。青銅や石で作られる。
- (6) 合子 壺に蓋をもつ小型の器。平安時代以降、おもに中国より陶磁器製のものが輸入された。化粧材料・薬などを入れたと思われる。



西木ノ部遺跡掘立柱建物跡群 (A-C地区)



## 県下の緑釉陶器出土遺跡地名表 — 1 — (丹波・播磨)

番号	遺 跡 名	所 在 地	遺跡の性格	時 期	他の主な遺物
1	春日・七日市遺跡 (かすか・なぬかいち)	水上郡春日町七日市	水上郡衙か	奈良～平安	墨書土器
2	市辺遺跡 (いちべ)	水上郡水上町市辺	集落跡	平安初期	
3	新郷遺跡 (しんこう)	水上郡水上町新郷	集落跡	平安中期	
4	板井・寺ヶ谷遺跡 (いたいてらがだに)	多紀郡西紀町上板井字ヶ谷	集落跡	奈良末～鎌倉初期	墨書土器・石帯
5	西木ノ部遺跡 (にしきのべ)	多紀郡西紀町東・西木ノ部	集落跡	奈良末～鎌倉初期	墨書土器・硯・鈐帯
6	二の坪遺跡 (にのつぼ)	多紀郡篠山町二の坪	小野駅家関連か	奈良～平安	
7	大芋中遺跡 (おくもなか)	多紀郡篠山町中	集落跡	奈良～平安	
8	北門遺跡 (きたかど)	西脇市水尾町北門	散布地	奈良～平安	
9	狐塚古墳 (きつねづか)	加東郡社町東実字南節句田	散布地	奈良～平安	
10	戸田遺跡 (とだ)	三木市志染町戸田	集落跡	奈良～平安	
11	吉田南遺跡 (よしだみなみ)	神戸市西区玉津町枝吉	明石郡衙か	奈良後期～平安前期	墨書土器・硯・石帯
12	出合北山遺跡 (であいきたやま)	神戸市西区玉津町出合	集落跡・水田跡	奈良～平安	灰釉陶器
13	小寺遺跡 (こでら)	神戸市西区伊川谷町小寺	集落跡	奈良～平安	
14	小谷遺跡 (こたに)	加西市北条町小谷	散布地	奈良～平安	
15	溝ノ口遺跡 (みぞのくち)	加古川市加古川町美乃利	集落跡	奈良～平安	風字硯
16	塩田遺跡 (しおた)	高砂市曾根鍋田	地方官衙か	奈良～平安	墨書土器
17	播磨国分寺跡 (はりまこくぶんじ)	姫路市御国野町国分寺	播磨国分寺	奈良～平安	硯
18	毘企門遺跡 (びしゃもん)	姫路市御国野町国分寺	推定播磨国分尼寺	奈良～平安	
19	上原田遺跡 (かみはらだ)	姫路市飾東町庄・上原田	地方官衙か	奈良中期～平安前期	墨書土器・硯・石帯
20	本町遺跡 (ほんまち)	姫路市本町	播磨国府か	奈良～鎌倉	灰釉陶器、和同開珎
21	姫路城跡 (ひめじじょう)	姫路市本町	国府旧総社関連	奈良～平安	
22	辻井遺跡 (つじい)	姫路市辻井	寺院跡	奈良～平安	墨書土器・硯・灰釉陶器
23	円教寺境内 (えんきょうじ)	姫路市書写	寺院	平安中期	灰釉陶器
24	坂本城跡 (さかもとじょう)	姫路市書写字二林	集落跡	平安後期	
25	タテノ遺跡 (たての)	姫路市飾磨区構字タテノ	散布地	平安中期	
26	辻垣内遺跡 (つじかいち)	姫路市飾磨区辻垣内	散布地	平安前期	灰釉陶器
27	石や田遺跡 (いしやた)	姫路市飾磨区加茂字石や田	集落跡	平安前期	
28	茶屋ノ前遺跡 (ちややのまえ)	揖保郡太子町上太田茶屋ノ前	散布地	平安	
29	小犬丸遺跡 (こいぬまる)	龍野市揖西町小犬丸	布勢駅家か	奈良～平安	灰釉陶器
30	龍子長山1号墳 (りゅうこながやま)	龍野市揖西町龍子字長山・南山 字向イ山	古墳石室再利用	平安中期	
21	堂山遺跡 (どうやま)	赤穂市塩屋字堂山	製塩遺跡	平安後期	
32	香山庵寺 (こうやま)	揖保郡新宮町香山坪尻	寺院跡	平安中期	
33	本位田遺跡 (ほんいでん)	佐用郡佐用町本位田	長尾庵寺関連か	奈良～平安	円面硯
34	安富中学校前東遺跡 (やすとみ)	宍粟郡安富町安志	集落跡	奈良～平安	灰釉陶器



## 遺跡散步——篠山盆地——

〈交通機関〉

国鉄福知山線篠山口駅下車、国鉄・神姫バス篠山行  
二階町下車。

揺られてきたバスを二階町で降りると、そこは城下町篠山の中心部。大手通を南へ行けば篠山城跡。城下町のおもかげがよく残る町並みを抜けた北西の山すそには、**郡**刻印がある須恵器を出土した東浜谷遺跡があり、古代の多紀郡の役所（ぐんが郡衙）と推定されています。

田園風景の中の農業用道路を東へ向うとすぐ左手に、丹波最大の円墳である新宮古墳（しんぐう 径56m）が姿をみせます。その北東の水田には、寺内廃寺があります。うち多くの瓦が出土し、7世紀後半から8世紀にかけての寺院跡と考えられ、東浜谷遺跡との関係が注目されます。さらに道を進んだ春日江には藤岡山遺跡があります。ここでは旧石器時代の石器、縄文時代後期の土器や多量の石器、弥生時代中期の方形周溝墓などが発見されており、かなり大規模な遺跡であったと考えられています。

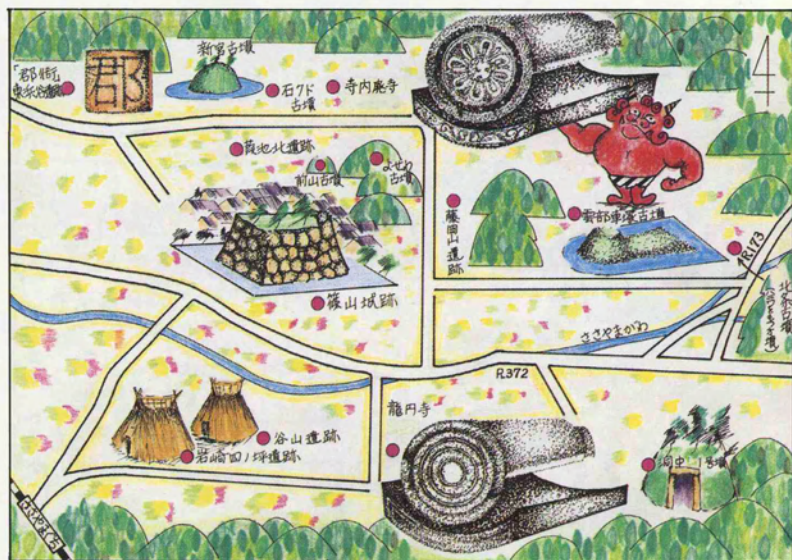
その東の東本荘の谷あいには、県下第2位の規模(全長139m)をもつ古墳時代中期の前方後円墳、雲部車塚古墳があります。周囲には濠が掘られ、くも　べ豎穴式石室たてあな　しきせきの中に長持形石棺ながもちがおさめられています。明治29年(1886)の記録(『車塚一畦』)によると、刀・剣・鉾・短はこ　たん甲・冑などが出土したこ　かぶとと記されています。交通の要所を占めるこの地に、盆地を治めていた首長の墓が築かれたものと思われます。



洞中 1 号墳 横穴式石室

ここから篠山川に沿って南下した日置には、郡内最大の横穴式石室をもつ洞中1・3号墳があり、石室の中をのぞくこともできます。国道372号線をさらに西へ行けば、奈良時代の瓦が出土する龍円寺跡、さらに谷山遺跡・岩崎四ノ坪遺跡などの弥生時代の遺跡が知られ、そのまま西へ約2.5km進めば篠山口駅に到ります。

こうして篠山盆地を1周すれば、いまは山に  
囲まれた静かな山里における、原始・古代の歴史  
の一端を理解していただけることと思います。



### 篠山盆地の遺跡



